

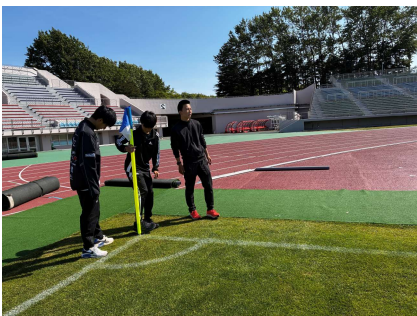
令和8年(2026年)5月27日  
報告者:HKFA 審判委員会育成・普及グループ  
岸本 拓洋

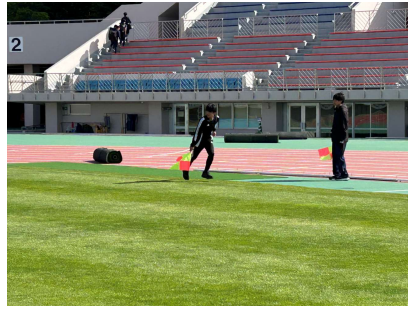
## 2026年度 (公財)北海道サッカー協会 審判トレセン札幌ブロックレフェリーアカデミー①報告書

- 1.日 時 令和8年5月23日(土) 8時15分~15時30分
- 2.場 所 札幌市厚別公園競技場
- 3.参加者 太田 碧飛(旭川地区 高校3年)  
片桐 奈槻(北空知地区 高校3年)  
菅原 翔太(札幌地区 高校3年)
- 4.講 師 岸本 拓洋(HKFA 審判委員会育成・普及グループ、サッカー2級審判インストラクター)  
増田 裕之(HKFA 審判委員会育成・普及グループ、サッカー2級審判インストラクター)  
工 藤 尚(サッカー2級審判インストラクター)
- 4.研修内容 審判実技:高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2026 北海道 ブロックリーグ札幌  
トレーニング:プラティカルトレーニング(負傷者対応、ゴールキック時の副審の動き方など)
- 5.研修内容イメージ



## 6.研修会写真





## 7. 研修会参加審判員感想

今回の試合では、両チームの力量が同じくらいで、やっていて楽しかったです。負傷者や脳震盪の疑い、キーパーチャージなどの多くのシーンを経験することができたので、普段あまりないことを増田先生が見てくれたので、こういう時はこういうことをしたらいいなどのアドバイスを貰えて、良い経験値になりました。一番の大きな課題は、動き出しの速度です。予測をして動き出すことができたので、前線へロングボールが行っても争点からそんなに離れることがなかった。しかし、動き出しは良かったが、速度は早くなかったので、争点の真横に入れなかったことがあったので、今回出来た動き出しに加えて、動き出しの速度を上げるようにしたいです。理想は動き出しが早くて、だんだん緩めていき、争点に行く感じにしたいです。

プラティカルトレーニングでは、他の人のやり方などを見ることができたので、参考にしたいです。自分は副審を教えてもらったことがなかったので、改めて学ぶことができ、良かったです。今後は、2級審判員に合格することを目標に頑張ります。



試合前こそ公式戦の主審を務めることが2年ぶりであり緊張もあったが、選手の引退がかかっているなどのエピソード性があり、応援もある良い雰囲気の試合を担当することができ、率直に楽しかった。試合中にも頭の中で常にポジショニングやジャッジを反省し、改善することを繰り返すことができたと思う。ハーフタイムにアドバイスしていただいた予測して走ることも後半にチャレンジできたので良かったと思う。ポジショニングやジャッジについての改善点は何度も挑戦し、失敗し、修正していけば良いが、負傷者対応でチームスタッフを呼んだのに選手をピッチ外に出さなかったり、キックオフ時に帰陣が遅れていた選手に気づけなかったりといった初歩的なミスをしてしまったことは厳しく反省しなければならないと感じた。プラティカルトレーニングでは、課題に挙げた負傷者対応について学ぶことができたので良かった。今後は、少ない活動数の中でとにかくチャレンジをし、多くの気づきが得られるよう頑張っていきます。

副審の旗の上げ方特にオフサイドの部分では右手で上げることを忘れてしまうので特に注意して改善していきたいです。主審のサポートなどできたので良かったです。交代の時に一斉に交代するのか、交代人数など色々な場合を体験できたので良かったです。焦らずに交代確認用具チェックなどしたいです。

プラティカルトレーニングでは、負傷対応を実際に経験したことがないので経験できて良かったです。ベンチが盛り上がっても落ち着かせて主審の判断を待ち、状況判断をしっかりしたいです。今後は、主審や副審の経験を積み重ねていきたいです。



## 8. 研修会参加インストラクターより

本研修会の開催にあたり、貴重な試合の機会をご提供いただきました参加チームの皆様、ならびに厚別公園競技場という素晴らしい環境と機会を整えてくださった実行委員会の皆様に、心より深く感謝申し上げます。公式戦という緊張感のある中で参加したユース審判員にとって、一瞬の判断が勝敗を左右する緊迫感を肌で感じられたことは、何にも代えがたい貴重な経験となりました。

引き続きユース審判の育成普及に関し、皆様のご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。